札幌市立緑丘小学校
第24回教育実践研究会

研究主題

学びに自分の意志をもつ子

重点 つなぐ学び

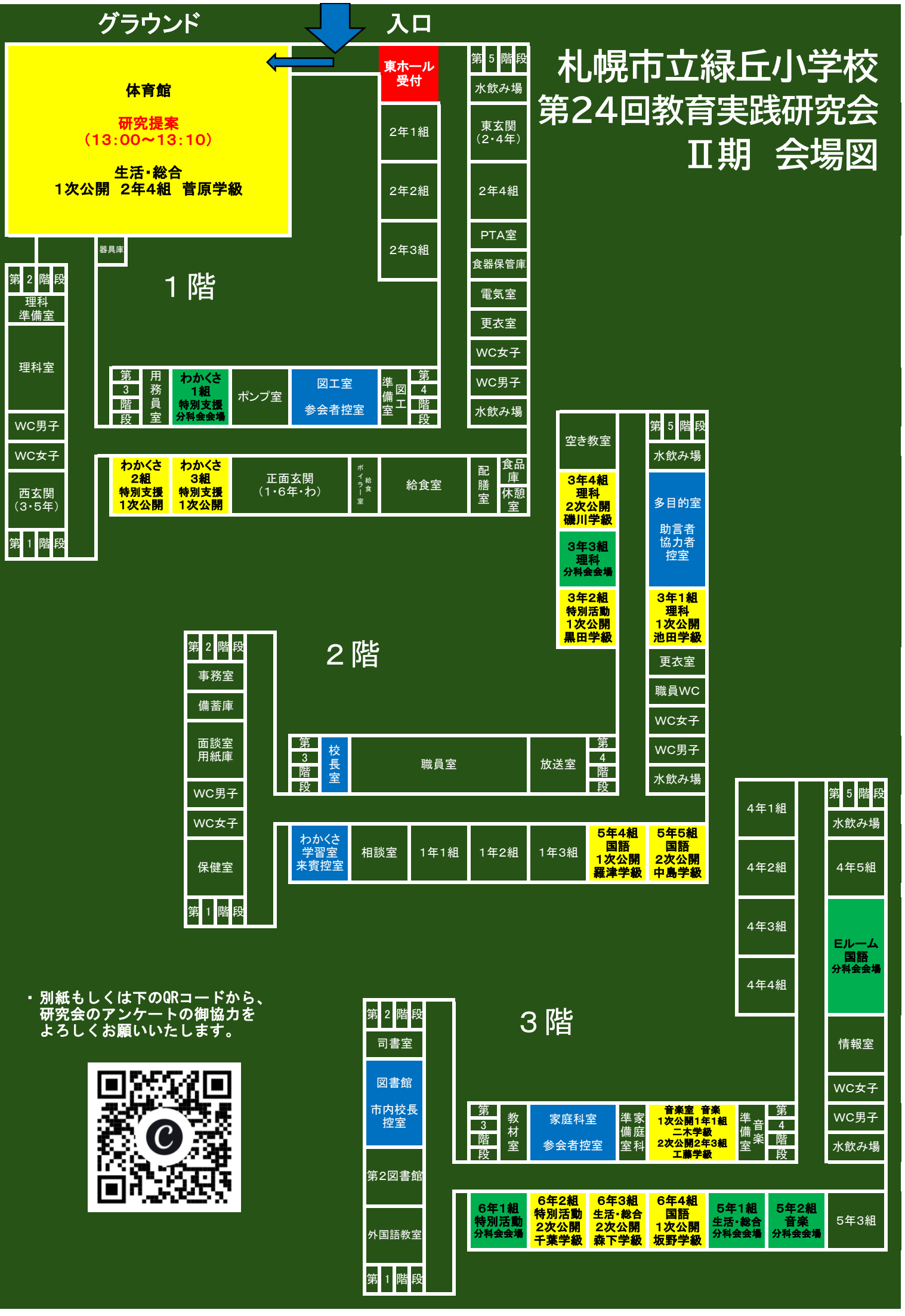
第Ⅰ期　9月18日(金)

社会	3－3	平　侑真	「工場ではたらく人と仕事」
	4－5	谷川　充	「地震にそなえるまちづくり」
	5－2	奥泉　峻	「日本の工業生産と今と未来」
算数	1－3	池野　翔太	「たしざん」
	4－2	佐野　楓河	「垂直、平行と四角形」
	2－1	三浦　聡一郎	「三角形と四角形」
図画工作	1－2	渡辺　恵美子	「スルスルビューン」
	5－1	北野　信次郎	「水から発見　ここきれい！」
体育	4－1	清橋　隆之介	「スペーストライアングルゲーム」
	6－1	齋藤　未来	「リズム高跳び～みどりっ子スターズ～」
外国語	4－3	和田　誉	「Unit7　What do you want?」
	専科(6年)	太田　麻子	「Unit5　Where is it from?」
道徳	2－2	髙橋　周	「おかあさんとのやくそく」
	4－4	酒井　利来	「お母さんのせいきゅう書」
	5－3	中野　梨紗子	「セルフジャッジ」

第Ⅱ期　11月6日(金)

国語	5－4	羅津　日向子	「固有種が教えてくれること」
	6－4	坂野　由美子	「『考える』とは」
	5－5	中島　幹太	「想像力のスイッチを入れよう」
理科	3－1	池田　拓樹	「じしゃくのせいしつ」
	3－4	磯川　祐人	「じしゃくのせいしつ」
生活・総合	2－4	菅原　裕子	「作ってためして」
	6－3	森下　恭時	「Dreams come true.」
音楽	1－1	二木　愛花	「せんりつでよびかけあおう」
	2－3	工藤　壮生	「いろいろながっきの音をさがそう」
特別活動	3－2	黒田　健太	「3－2チャレンジ集会をしよう」
	6－2	千葉　朋輝	「『響』学習発表会をつくろう！」
特別支援	わかくさ	木村　裕昭、石川　富美、森　達也、篠原　唯、岩井　千波、奥山　陽子	
		生活単元学習/自立活動「わかくさまつりをしよう！」	

札幌市立緑丘小学校
第24回教育実践研究会
Ⅱ期　会場図



・別紙もしくは下のQRコードから、
研究会のアンケートの御協力を
よろしくお願いいたします。

10年前・10年後

校長　三戸部　文彦

第24回緑丘小学校教育実践研究会に御来校いただき、感謝申し上げます。

本校教職員は、この日に向けて懸命に授業づくりに励んできました。中には、研究会で授業を公開するのはこれが初めて、という教職員も複数おりますが、彼らが皆同じ土俵に立ち、自分の考えをもとに、子どもたちと共に授業をつくり、見ていただいて御批正を頂戴すること、その全ての過程が教職員一人一人の確かな成長につながるものと思います。そして、それが緑丘の子どもたちの豊かで確かな「深い学び」につながるものと願っております。忌憚のない御指導をよろしくお願いいたします。

さて、現在、次期学習指導要領改訂に向けて検討がなされていると耳にします。

思い起こせば10年ほど前、前回の要領改訂時期にも、実にさまざまなキーワードが私たちの耳に入ってきました。「コミュニティ・スクール」や「チーム学校」といった大きな枠組みのものから、教育課程編成や実施、評価等、内容そのものに関わる「カリキュラムマネジメント」「道徳の教科化」「外国語活動」。一コマの授業の在り方や子どもの学びのプロセスや様相にまで踏み込んだ、「アクティブ・ラーニング」など、多岐にわたっていました。

そして今、それらの流れを汲む文言とも取れる「『主体的・対話的で深い学び』の実装」（Excellence）と、まさに現代の学校の状況を象徴する「多様性の包摂」（Equity）、そして「実現可能性の確保」（Feasibility)という三つの大きな柱と、これらに付随する「調整授業時数」「余白」などといった要素が、新たな言葉として学校現場に徐々に届いています。

今回は、視覚的にも整理された図式も伴っての提示で、以前よりは身構えることも少ない印象ですし、比べてみると一貫性のある部分と、新たに加わってきた課題という捉えができる分、混乱はやや少ないようですが、私にとっては、変革についていくことに必死、というのが正直なところです。

一方で、これまで進められてきた小学校研究の在り方について、自分の拙い経験も含めてふり返ると、次期要領と共に歩む今後の５年先、10年先を見据えたときにはそれこそ大きな転換期に入っていると感じます。

教職員不足の問題や、教職員の働き方改革が進む中で、これまで通りの、時間と費用をかけた研究推進は難しくなってきています。各学校で研究会の実施に負担感を感じる部分は、全くないとは言えないですし、実際に、夜遅くまで指導案検討に取り組む姿もあります。市内では、研究会を開催しても、なかなか教室を空けられないために参会者が少なくなってきています。開催側は参会者確保のために「指定参会者」という仕組みをつくり迎え入れますが、指定された側の学校では、補欠体制を組むことに困難さが生じています。校内の授業研においても、安全管理の面も含めて見守り体制が必要になり、いわゆる担任外教諭が見回りをしたり、短時間ずつ交代で授業を参観したり、という現状をよく耳にします。

このような潮流の中でも、授業をより良いものへと変えていくための研鑽は必要です。しかし、「昔はできていた。」と嘆くばかりでは変わりません。今、改めて、業務の精選と授業改善の営みを両立させる新たな方策が必要と感じます。緑丘小学校の研究推進のこれまでの歩みと、本日の研究会までの営みに心からの敬意をもちつつ、今回の研究会を礎として、未来を見据えていきたいと考えます。まさに『実現可能性の確保』、持続可能な小学校研究の在り方を追求し、教師と子どもの双方に「余白」を創出することで、子どもにとっての豊かな学びと、教師の確かな成長に繋げていく。その転換の方向性を、今後皆様と共に考えていくための、10年後を見据えた『一手』としての研究会となれば、と願っております。

令和８年度
緑丘の教育

学校教育目標　強い子
やさしい子
考える子
きまりよい子

札幌市立緑丘小学校　学校経営の重点

あこがれとありがとうでつながる学校

人に優しく　自分を磨く　みどりっ子

「何のために★誰のために」

～聞こえる子どもの声、聞こえない子どもの声を聴く学校～

緑丘のこころづくり

心のつながりを大切にする子

同質性から多様性を尊重する心

緑丘のまなびづくり

学びに自分の意志をもつ子

誰にも自己決定の場がある授業

緑丘のからだづくり

健康を意識し自ら行動する子

仲間・時間・空間の創出

- 「何のために」から始まる教育活動
- 一人一人の自立を促す しなやかな教育課程
- 自ら進んで「創る」自治的な取組
- 小中９年間の一貫した教育の推進（啓明中学校区）

緑丘の研究

緑丘小の研究

わたくしたちのよい学校

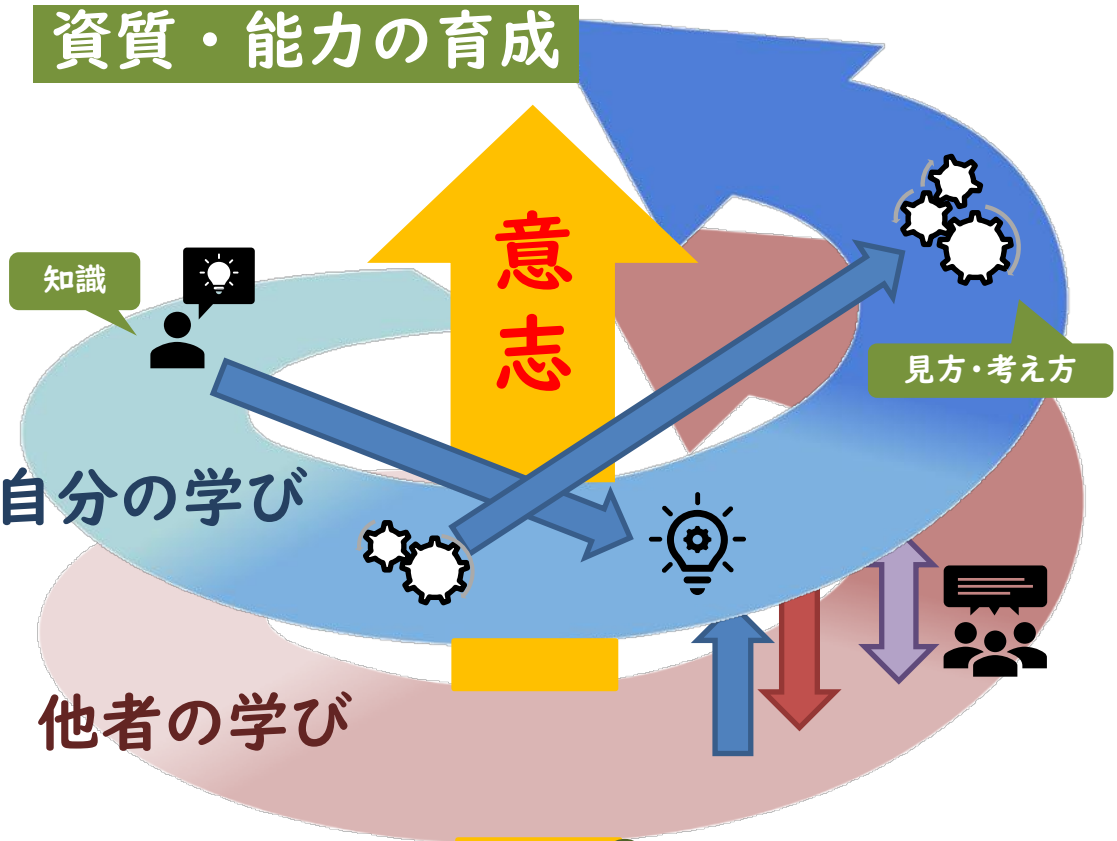
あこがれとありがとうでつながる みどりっ子

学校教育目標

強い子・やさしい子・考える子・きまりよい子

研究主題　学びに自分の意志をもつ子

研究の重点　つなぐ学び



1. 自らの学びをつなぐ

見通し⇔行動⇔結果
獲得した知識・生活経験
⇔様々な場面
学んだ学び方⇔新たな課題
働かせた見方・考え方⇔
次に働かせる見方・考え方

2. 他者の学びを自らの学びにつなぐ

自分⇔他者
目的をもって他者とつながる
他者から学びとることを選択する
他者との学びを通して、
新たな価値を見出す

研究主題

学びに自分の意志をもつ子

―「学びに自分の意志をもつ子」の育成に向けて―

本校では、令和４年度より継続して、「学びに自分の意志をもつ子」の育成を研究主題として掲げ、研究を進めてきました。３年研究の最終年となる令和８年度は、これまで積み重ねてきた実践を基に、子どもがどのような場面で学びに向かう意志を発揮し、また、その意志をもち続けることができるのかについて、子どもの姿での具現化を目指しながら研究を深めてきました。

今年度は、研究会において他校の先生方にも本校の研究を御覧いただくことを踏まえ、研究の考え方や実践の意図をより明確にしながら、「学びに自分の意志をもつ子」とはどのような姿なのか、また、その姿を支える教師の手立てとは何かについて、全校で追究して参ります。

1. 研究の出発点―教室と職員室の接続

研究の根幹にあるのが、「教室と職員室はつながっている」という考えです。この言葉は、単なる比喩ではなく、実際の教育実践において示唆的な意味をもっています。教室で展開される授業と、職員室で交わされる教師同士の対話や共有は、分断されたものではなく、相互に影響し合い、子どもたちの学びの質を規定するものであると考えます。授業研究や教材研究、日常の指導についての相談やちょっとした立ち話というような、教師同士の職員室での様々な協働が積み重なることで、授業改善の視点が共有され、子どもの学びを支える土台になっていきます。

本校では研究を、特定の授業技術を習得する場としてだけではなく、教師自身が自らの教科観や授業観、指導観、子ども観を問い直しながら成長していく過程として捉えています。教師自身が学び続ける姿勢をもつことが、子どもの学びに向かう意志を支えることにつながると考えるからです。今年度も、職員室が「授業について語り合う場所」であり続けることを大切にしていきます。

2. 研究主題の核心―「意志」をもつとは何か

「学びに自分の意志をもつ子」という表現に込められた「意志」とは、

自ら何かを「～したい」と望み、
その実現に向けて行動しようとする内面的な働き

と位置付けています。

この「～したい」という内発的な動機は、単なる感情（好き・嫌い）とは異なり、目的意識を伴って行動に向かおうとする意図を含んでいます。そのため、「意志」は、「願望」や「希望」をもつだけではなく、そこから実際の行動を方向付けるものだと考えます。

「意志」とは

研究の重点

つなぐ学び

これまでの研究を通して見えてきたことは、緑丘小の子どもたちは決して「意志をもっていない」わけではないということです。むしろ、一人一人が「～したい」「やってみたい」という思いを強くもっており、日常の活動においてはそのエネルギーが表出する場面も少なくありません。問題は、それが「学び」へと向かうかどうか。そして、それが「学び続ける意志」として持続するかどうかだと考えます。

また、昨年度の研究や子どもの実態からは、「学びたい」という意欲はある一方で、「自分はできる」「自分の考えには価値がある」という自信との間にギャップがあることも見えてきました。そのため、今年度は、単に学びに向かう意志を引き出すだけではなく、その意志を支える「自信」や「学びの価値の自覚」にも着目して授業づくりを進めています。

子どもが、「前もこの方法でうまくいった」「友達の考えを聞いて分かるようになった」「自分の考えが認められた」と感じることができれば、それは次の学びに向かう意志につながっていきます。私たちが目指しているのは、子どもを変えることではなく、子どもが本来もっている意志を、学びに向けて発揮できるよう、教師自身が関わり方や授業の展開、環境づくりを工夫していくことです。

3. 研究の重点―「つなぐ学び」と子どもの実態

本校で継続して、「学びに自分の意志をもつ」ことに着目してきたことで、緑丘小の子どもたちの姿から、強みや課題が見えてきました。

緑丘小の子どもたちの強み

「人の役に立ちたい」という

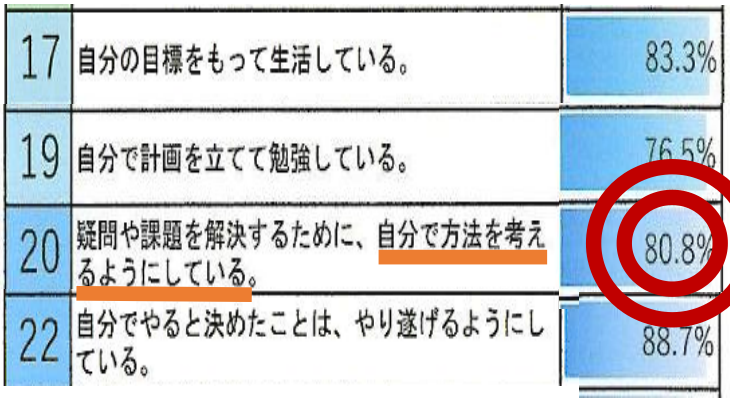
社会貢献意欲（94%超）

札幌市教育委員会から発出されている「学習などに関するアンケート」の分析からも緑丘小の子どもたちの学習における強固な土台となっていることが分かります。

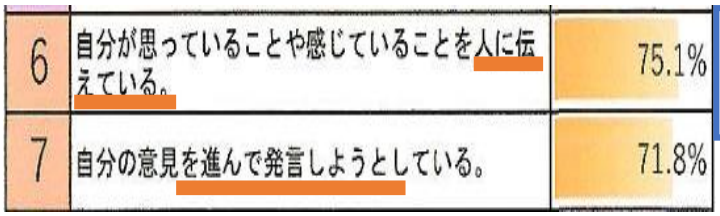
その一方で、自己表現へのためらいなど、次のような課題を抱えていることが見えてきます。

緑丘小の子どもたちの課題

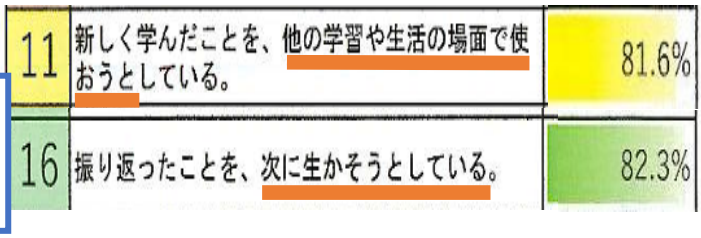
- **「解決に向けて方法などの見通しをもって、活動すること、また、そこから考えたことなどを自分から発信すること」**
- **「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」**



「解決に向けて方法など見通しをもって、活動すること」ことに関係する項目（特に、№20 に関しては近年減少傾向にある。）



「考えたことなどを自分から発信すること」に関係する項目



「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」に関係する項目

「学習などについてのアンケート」（令和６年度実施）より抜粋

だからこそ、今年度の研究では、意志を「もつ」だけではなく、様々な場面で発揮された意志をもち続けることが重要だと考え、

研究の重点　「つなぐ学び」

を設定しました。

現行の学習指導要領が施行され、主体的・対話的で深い学びが重視される中で、「つなぐ」ことを意識した学びの重要性は以前から示されてきました。しかし、本校では、子ども自身が「つなぐ」よさを実感できることこそが、学びへの意志を発揮し、持続させる原動力になると考えています。

本校の「つなぐ学び」とは、知識同士が結び付くことだけではありません。

「前にも似たことを考えた。」「あの時の考え方が使える。」「友達の考えを聞いて、自分の考えが広がった。」というように、子ども自身が、学びがつながっていることを自覚することを意味しています。

子どもが、「学びはつながっている」「友達と学ぶことには意味がある」と感じることができれば、次の学びへの期待感が生まれ、「もっとやってみたい」「次はこうしたい」という意志へとつながっていくのではないでしょうか。

過去の実践から

ここで、「つなぐ学び」について、具体的な事例で考えてみます。

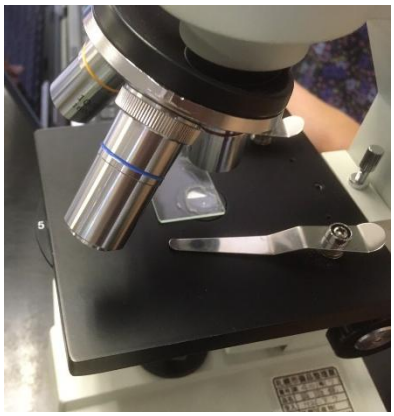
６年理科「水溶液の性質とはたらき」の学習の際に、水溶液に溶けているものが何かを明らかにしたいと考えた子どもが、「出てきた白い粉を顕微鏡で見れば、溶けていた物が何か分かる。」と言ってきたのです。

その子どもは、５年生の「物のとけ方」の学習の際に、顕微鏡で食塩やミョウバンの溶ける様子や析出した様子を観察した経験がある子どもでした。

このことから、子どもは、５年生の理科の学習で、顕微鏡で観察して溶け方について明らかにした経験を、６年生の水溶液の学習につなげることで、学ぶ意志を強めたのではないかと考えました。

５年理科「物のとけ方」

６年理科
「水溶液の性質とはたらき」



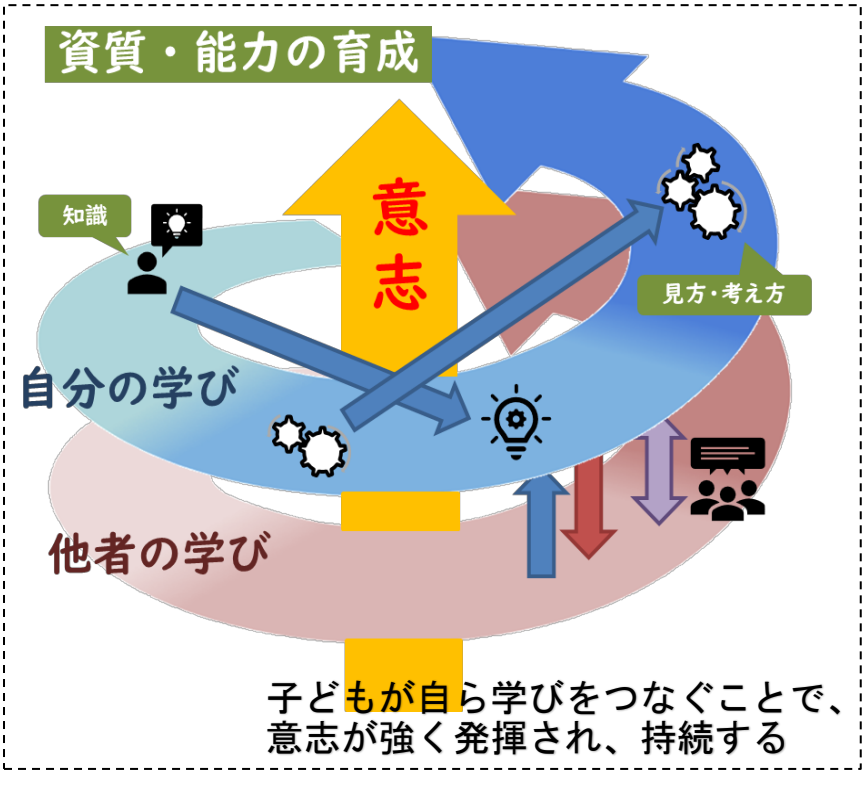
このような単元間や学年間でのつながりが感じられた事例は他の学習でも見られました。しかし、いずれも教師が意図的につながる構成にしていたのではありませんでした。もし、今回の研究で、意図的に子ども自らが学びをつなげられるようにできれば、子どもたちの意志が強く発揮され、持続するのではないかと考えました。

また、このような姿は理科だけではありません。

算数では、割合や図、式など、これまで学習した考え方を手掛かりにしながら新しい問題を解決しようとする姿があります。「前に使った図を使えば考えられそうだ。」と、自ら既習事項をつなげることは、新しい問題の解決への意志につながります。

国語では、友達の考えを聞くことで、「その言葉に注目したのか。」「自分の考えをもう少し変えてみたい。」と、自分の考えを更新していく姿があります。他者との対話を通して、自らの学びを広げていくことも、「つなぐ学び」の一つだと考えます。

このように、教科は違っても、子どもが学びをつなぐことで、学びへの意志が支えられていくという点には共通性があると考えています。



視点について

４．２つの視点から見る「つなぐ学び」

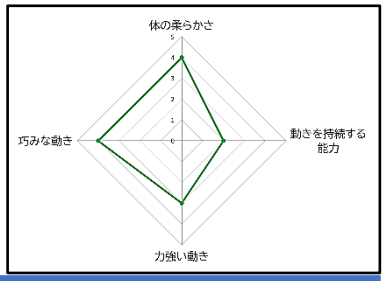
では学習の中で、子どもは何をつなぐのでしょうか。
本研究では、「つなぐ学び」を２つの視点から具体化します。

視点１　自らの学びをつなぐ
視点２　他者の学びを自らの学びにつなぐ

【自らの学びをつなぐ】

ここで大切にしたいのは、子どもが「この前のやり方が使える。」「この考え方でやってみよう。」と、自分の学びをつないでいく姿です。ここでいう学びには、いくつか意味があります。

５年体育
「体つくり運動」



自分に合った課題を見つけるための、体力テストの数値を基にしたレーダーチャート。

◇見通し⇔行動⇔結果

つなぐ学びの１つとして、単元の見通しをもち、行動し、その結果を次の見通しにつなげるということが考えられます。これは、札幌市が課題探究的な学習を捉え直す視点として位置付けているＡＡＲサイクルとも関係の深いものだと考えています。

◇獲得した知識⇔様々な場面や生活経験

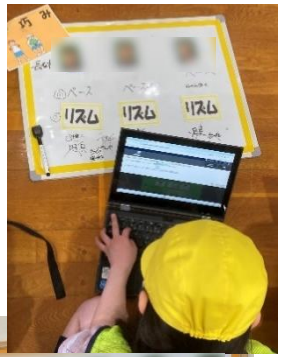
工夫の視点と運動の効果の知識を運動の行い方の選択とつなげた。

前時までの学習で獲得した知識や生活経験を活用して問題を解こうとしたり、本時で明らかにしたことを次の時間の学習、次の単元などにつなげようとしたりすることも、学びをつなぐ姿だと考えます。

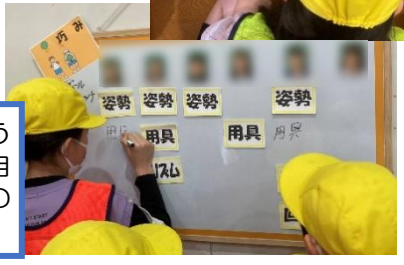
◇学んだ学び方や働かせた見方・考え方⇔新たな課題

顕微鏡を使って追究した子どもの例のように、課題を解決した際に、学んだ解決の方法、いわゆる「学び方」を次の課題でも生かせないかとつなげることも学びをつなぐことになると考えます。また、単元を通して見方・考え方を働かせることで、その経験が、次の単元につながり、同様に見方・考え方を働かせる姿として現れることもあるでしょう。

【他者の学びを自らの学びにつなぐ】



一昨年度の取組では、視点２を**「自ら他者とつながる」**としていました。しかし、実践を積み重ねる中で、交流の場を設定すること自体が目的化してしまい、「なぜ話し合うのか」「交流の先に何があるのか」という意識が十分ではなかったという反省がありました。そこで昨年度から、**「他者の学びを自らの学びにつなぐ」**と視点２を改め「なぜ話し合うのか」「何のために友達と考えを共有するのか」という目的をもったつながりを大事にしました。



他者がどの工夫の視点を取り入れようとしているのか可視化することで、自分と違う視点を取り入れている他者の学びもつなげられるようにした。

そして、今年度も大切にしたいことは、交流そのものではなく、他者との関わりを通して、自らの学びが更新されたり、広がったりすることです。
友達の考えを聞くことで、
「そんな考え方があったのか。」
「自分の考えと比べるとどうだろう。」
「その方法を取り入れてみたい。」
と、自分の学びに価値ある変容が生まれることが重要だと考えます。
そのためには、教師が単に「話し合いましょう。」と促すだけではなく、
・なぜ交流する必要があるのか。
・誰とつながると学びが深まるのか。
・交流によって何を得たいのか。
という必然性を、授業の中で位置付けていく必要があります。
子どもたちが、
「友達とつながると、こんな発見がある。」
「あの子の考えが、自分の考えを広げてくれた。」
という感覚をもつことができれば、対話や協働の価値を自覚し、それが新たな学びへの意志へとつながっていくのではないでしょうか。
また、そのような経験の積み重ねは、自分の考えに自信をもつことや、自ら発信しようとする姿にもつながっていくと考えます。

終わりに

５．終わりに
―研究を深めるために教師自身が問いをもつ―

「学びに自分の意志をもつ子」の姿とは、具体的にどのような姿なのか。それは各教科において異なる表れ方をします。例えば、理科においては追究の仕方を変化させる姿として、社会科では、資料に浸り得た根拠を基にする姿として、国語では目的と相手意識をもち、既習や言葉を拠り所にする姿として、体育では解決に向けて自ら道筋をつけながら運動の行い方を工夫している姿として表れるのではないでしょうか。重要なのは、教師自身が、それぞれの教科における「意志をもっている姿」を具体的に捉え、それがどのような資質・能力の育成とつながっているのかを理解し、見取ることです。

また、今年度の研究では、子どもが「学びがつながっていること」や「他者と学ぶ価値」を自覚できるようにするために、どのような手立てが有効なのかについても検証していきます。

本校の研究会では、子どもがどのようにつながりを見いだし、どのような場面で意志を発揮し、また、持続させているのかという視点から、授業を御覧いただければ幸いです。

研究とは、単なる技術の研修ではなく、教師自身が問いをもちながら授業に向き合い、教科観や授業観を問い直していく営みだと捉えています。３年研究の最終年となる令和８年度は、これまで積み重ねてきた研究を整理しながら、「学びに自分の意志をもつ子の育成」の意味を改めて問い直し、研究を深めていきます。

意志をもって学ぶからこそ、育むことができる力や姿があると信じて、今年度も一歩一歩、研究を進めて参ります。

【参考文献】
白井俊著『ＯＥＣＤ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ２０３０プロジェクトが描く教育の未来―エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房（2020）
田村学著『深い学び』東洋館出版社（2018）
田村学著『学習評価』東洋館出版社（2021）
鳴川 哲也/塚田 昭一編著『小学校理科と個別最適な学び・協働的な学び』明治図書出版（2024）
鹿毛 雅治/藤本 和久編著『「授業研究」を創る―教師が学びあう学校を実現するために―』教育出版（2017）

各部の主張と指導案

〇次公開

社　会

『わたしたちの暮らしを支える政治』

令和８年５月１日（金）
児童　６年１組　30 名
授業者　齋藤　未来

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

部で示した意志をもっている姿を基に、本単元全体で想定される意志をもっている子どもの姿を記述している。

政治単元では、国の政治の働きについて学ぶことで、国民主権を担う公民としての自覚を養うことをねらう。しかし、実際の子どもの社会参画意識は低い水準であり、当事者意識には課題がある。そのため、政治に対する興味・関心と自分の暮らしと政治とのつながりを理解することができるようにするために、本単元では、市役所や議会などの身近な施設や人を教材化し、子育て政策の在り方について問題解決的な学習を行うようにした。そうすることで、暮らしと政治のつながりを実感し、人々の願いを実現するために、どのように政治を行っているのかについて自分事として追究するための証拠を集め、選択する姿が生まれると考えた。また、そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが、社会の形成者として自ら判断し社会参画していくことにつながる。

本単元での意志をもっている姿を、「なぜそのように設定したのか」、「なぜそのような姿を生むのか」について具体的に記述している。

【単元の目標】

札幌市の政治は、国民主権の考えの下、市民の様々な願いを実現し、生活の安定と向上を図る大切な役割をしていることを理解するとともに、子育てサロンの見学や聞き取り調査、市のホームページや広報誌等複数の資料から証拠を集めて読み取り、整理することができるようにする。【知識及び技能】

・子育て支援に関する政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、札幌市の政治の取組を捉え、市民の様々な願いを実現するための政治の働きについて証拠を基に追究し、表現することができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】

・札幌市の子育てに関する政治の取組について、主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりするとともに、多角的な思考や理解を通して日本の将来を担う国民としての自覚をもつことができるようにする。【学びに向かう力，人間性等】

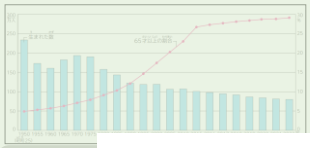
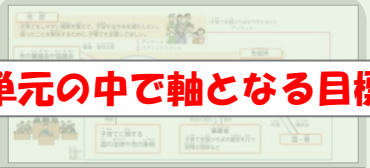
単元の目標

視点１　自らの学びをつなぐ	視点２　他者の学びを自らの学びにつなぐ
暮らしと政治のつながりが実感できる教材化 校区内の「子育てサロン」を教材化し、市や国の政治とのつながりを捉えられるようにする。さらに、児童が調査したい内容に応じて、市役所や議会などの身近な施設や人を教材化することで、暮らしと政治のつながりを実感し、人々の願いを実現するための証拠を集め、選択する姿が生まれると考えた。単元の終盤では、子育てサロンを通して見える暮らしと政治とのつながりについて振り返る時間を担保することで、今後の社会参画の意識につなげることをねらう。	他者とつながる必然性を生む教師の関わり 本時では、子育てサロンなどのように運営しているとよいと考えるのか、候補に立場を位置付け、可視化する。それにより、他者と考えを議論する中で、自分の考えについても、もっとこうしたいという思いが生まれるようにする。そうすることで、自分とは違う他者の視点に触れたり取り入れたりしながら、自分の考えを再構築することができると考えた。それにより、他者と考えを議論する中で、自分の考えの証拠を見直したり、選択し直したりする姿を生む。

自らの学びをつなげられるようにするために、何をするのか（手立てとその意図）について記述している。

他者の学びを自らの学びにつなげられるようにするために、何をするのか（手立てとその意図）について記述している。

【単元構成（８時間扱い）】

１～２時間目	３～４時間目	５～６時間目	７～８時間目（本時）
札幌市は子育てに関する人々の願いを実現するために、どのように政治を行っているのだろう？			
	様々な施設で行われている子育てサロンって何だろう？	子育てサロンはどのようにして作られているのだろう？	児童会館にあるのに、どうして町内会の人たちも子育てサロンを開催しているの？
日本の社…といった…	子育てサロンには、週３日・３時間以上開催している常設子育て…ている地…		子育てしやすい地域づくり目指しているんだね。
私たちの…じような…	…所の子…図に位置…利便性…	子育てサロンのお金はどこから？	子育てサロンをよりよくしていきたいな。
日本の社…や人口減…だけでは…がある。			市民の子育てに対する願いを実現するためには、子育て…？
札幌市…る人々の願いを実現するために、様々な施設やサービスを提供しているね。	…にも話を聞いてみよう。	私たち市民の税金から保健福祉費として使われているんだね。	…図を補…
緑丘小や児童会館「ミラクル」、幼稚園・保育園など、自分たちの身近な施設も子育て支援の場所だ。	子育てサロンは、０歳～就学前の子どもと保護者やこれから親になる人などが交流したり、子育ての悩みを相談したりできる場所。親子でどのようなことをしているかも、見学調査をして分かったよ。	市民の要望を市役所が受けて、それを基に計画・予算案を作成し、市議会で議決されると、市民の税金や国の補助金を使って実現していくよ。自分たちの暮らしと政治は深くつながっているね。	市民の子育てに対する願いを実現するためには、札幌市と町内会がそれぞれの立場で、利用者の願いに合った子育てサロンになるようにしていく必要がある。
			せんきょ体験授業 自分の住む地域・町内会への関わり

単元の学習課題(題材設定)

教師が提示する学習課題・発問

問い

子どもの思考

問いの解決
(単元構成の１番下では単元の学習課題の解決)

単元の中で軸となる目標

網掛けや矢印などで、学びのつながりが見えるように表記している。

【本時の目標】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について追究する活動を通して、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会が協力し合う必要性について、札幌市や町内会の働きについて表現することができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】

意志をもっている子どもの本時の目標

【本時の展開】（８／８）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
＜前時まで＞ **前時までの子どもの活動と思考の流れについて**		
子育て支援の拠点「子育てサロン」をよりよくするには？ **札幌市** 児童会館「ミラクル」 週３回いつも 子育てしやすい地域に **町内会** 南円山会館・緑丘小 年６回程度 開催場所が多い方が、どこに住んでいる人にとっても利用しやすい場所になるはずだ。 開催日数が多い方が、日常的に活用することができて利用しやすい場所になるはずだ。		２つの子育てサロンの問題点について考えを明確にできるように、前時までに学んできた開催場所と日程、利用者の願いなどの証拠を想起する。（視点１）
本時の問い		
場所を増やすとなると、建設費が必要になるね。でもこれ以上支出は増やせないはずだよ。 地域の子育てサロンだったら建設費や人件費を増やすことなく運営できるよ。 運営に携わる保育士などの人件費も必要になってしまうよ。 でもボランティアの担い手不足や高齢化が問題にあったよね。 場所が増えると利用者が分散して、地域ネットワークとしての機能を失ってしまわないかな。 児童会館の子育てサロンと違って運営費もほぼ無いから、運営できなくならないかな。 日常的な居場所や保育士に相談したい人にとっては、児童会館の子育てサロンが必要だね。 家の近所や地域住民とのつながりがほしい人にとっては地域の子育てサロンが必要だね。 それぞれの立場で利用者のニーズに合わせて、開催場所と開催日数を補い合っているね。	**子どもの考えや活動が、前時までのどのような学びをつなげている姿なのかが明確になるようなキーワードを、子どもの学習活動や時間帯と揃えて記述している。**	**教師の意図や関わりについて記述している。** **視点１・２に関わる手立てのほか、教科的な手立ても記述している。** ときには、同じ立場の人と考えを共有するよう促す。（視点２）
本時の問いの解決		
児童会館の子育てサロンを続けていくために、将来税金を納めたり、自分の思いを実現してくれる人に投票したりしたいな。 地域の子育てサロンを続けていくには地域住民が参加していくことが必要。自分も町内会の行事に参加してみようかな。		子育てサロンを通して見える暮らしと政治とのつながりについて振り返る時間を担保することで、今の自分や将来の自分がどのように社会参画していくかという意識につなげられるようにする。（視点１）

【本時の評価】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会の[illegible]。（行動観察・発言・ノート）

本時の目標に照らし合わせた際に評価する子どもの姿と評価方法

特別支援教育部会

部の主張

指導案

部の主張

特別支援教育部

特別支援教育を通した意志をもっている姿

「やってみたい」「伝えたい」という目的に向かって、周りの人や環境と関わり、自分なりの方法で実現しようとしている姿

視点１

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- 子ども自身が「できそう。」「やってみたい。」という思いをもてるような教材との出合いの場を設定することで、学習課題や活動内容を限定・焦点化し、「まずやってみよう。」と安心して行動に移すことができるようにする。
- 興味や得意を起点に活動を構成した上で、「誰かに伝える」「何かをつくる」など、共通の目的に向かう学習にすることで、目的意識をもって興味関心と結び付けながらやってみたいことを考えられるようにする。
- 「できた。」「わかった。」という経験をスモールステップで積み重ねることができるような単元構成にすることで、自分の力でやり遂げたという思いをもち、次回の活動への期待感につなげて更なる「～したい。」を生み出せるようにする。

視点２

他者の学びを自らの学びにつなぐ

【その姿に向かうために】

- 子ども全員のよさや得意を把握し、それを生かし、一人一人が活躍することができるような場面や活動を設定することで、子ども同士が互いのよさに目を向けたり、やり取りしたりする姿が増えるようにする。
- 興味をもったものを誰かと共有しようとする瞬間を見取り、価値付けることで、共感する嬉しさや喜びを感じ、自分の思いや考えを発信してみようという気持ちが芽生えるようにする。
- 信頼できる大人や共感しやすいペアを作り、必要に応じてグループを組むことで、他者と関わるときに関わりやすい相手を選択することができるようにする。
- 共通の体験活動や日常生活の中で関わりが生まれるような環境を整えることで、自分なりの方法で他者に考えを伝えようという気持ちをもてるようにする。

※下線は教師の手立てを示している。

１次公開

自立活動/生単

『お祭りをしよう！』

令和８年 11 月６日（金）
児童　わかくさ学級 29 名
授業者　木村 裕昭　石川 富美　森 達也
篠原 唯　岩井 千波　奥山 陽子

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

目的に向かって、経験から「もっとこうしたい」を広げ、よさや得意を生かして活動しようとしている姿

本学級では、他者や環境と豊かに関わりながら生活する力を育てることが大切だと捉えている。現在の姿として、周囲を気にして自信をもてずにいる子や、失敗への不安から活動に消極的になっている子、自分の思いを一方的に伝えてしまう子など、それぞれに異なる背景がある。そのため、学級内の心理的安全性を確保し、一人一人のよさや得意なことを生かして相手や環境に関わる経験を積み重ね、自信や自己有用感を育むことが大切である。そこで本単元では、子どもが「やってみたい」と心を動かしながらやり取りを楽しめる「お祭り」の活動を設定した。相手の反応や言葉を直接受け止め、相手の気持ちを想像する中で、「もっとこうしたい」と自分の考えを工夫して伝える経験につなげていく。こうした学びを重ねることが、自分の得意なことを生かしながら苦手なことにも前向きに挑戦する意欲を育み、集団の中で主体的に人と関わりながら生活する力につながる。

【単元の目標】

・お祭りの準備や運営の仕方を知り、自分の役割や技能に応じて道具を扱ったり、お客さんと適切なやり取りをしたりすることができるようにする。【知識及び技能】
・お客さんや友達が楽しめるお店や遊びを考え、相手の様子を気にしながら工夫したり、自分の考えを伝えたりすることができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】
・「自分も楽しい・みんなも楽しいお祭りにする」という目的をもち、自分のよさや得意を生かしながら、友達や教師と協力して主体的に活動しようとすることができるようにする。【学びに向かう力，人間性等】

視点１　自らの学びをつなぐ

目的意識の共有・可視化

祭りを行う前に、「何のためにお祭りをするのか」「どのような力を身に付けたいのか」について子どもたちと話し合い、お祭りの目的を共に設定する。その目的を模造紙などにまとめて教室に掲示し、準備や本番を通していつでも確認できるようにすることで、活動が目的から逸れた際にも立ち返ることができる。また、子ども一人一人が目的を意識しながら活動することで、学級全体が同じ方向に向かって協力し、一つのお祭りをつくり上げようとする意識を育むことができると考える。

視点２　他者の学びを自らの学びにつなぐ

体験・感想交流を通したお店づくりの工夫の広がり

本番前にプレオープンを行い、自分のお店を体験してもらったり、友達のお店を体験したりする活動を設定することで、体験を通して友達のお店のよさや工夫を感じられるようにする。観点に沿ってお店を評価し感想を伝え合う機会を設けることが、自分の考えを伝えるきっかけや、客観的な意見を受けてお店を見つめ直すことになる。そうすることで、「もっとお客さんに喜んでもらいたい。」という思いを高め、お店をよりよくしようと主体的に工夫・改善する姿につなげていくことをねらう。

【単元構成（９時間扱い）】

既習	お祭りの目的やお店を考える １～３時間目	お店の準備をする ４～７時間目（６/９本時）	お祭りをする ８・９時間目
昨年度のお祭りの活動、一学期の北海道神宮祭の見学・夏祭りの活動	自分もみんなも楽しいお祭りにしよう！		
	どんなお祭りにしようかな。	より楽しいお祭りにするにはどうしたらいいかな。	自分もみんなも楽しいお祭りをしよう。
	お祭りをする目的を考えよう。 お店のアイデアを出そう。 どんなお店にするか、意見を出し合おう。	グループで役割や仕事を分担したり計画を立てたりして、お店の準備を進めよう。 プレオープンをしてお店を出す練習をしよう。**（本時）** より楽しいお店にするために工夫をしよう。	お店を出してお祭りをしよう。 お祭りの目的や活動をふり返ろう。
	前にお祭りをやった時は、自分もお客さんも楽しんだり、わかくさみんなが仲良くなったりするためにやっていたな。 北海道神宮祭でこんなお店があったな。やってみたい。 前に〇〇屋さんをやった時に準備したものは何だったかな。 これまでお祭りをした時にはどんな準備をしたかな。今回は何を準備したらいいかな。	わたしが得意な折り紙で、こんな景品を作ったら、喜んでもらえるかな。 今日はポスターを作る人、看板を作る人に分かれて活動したらいいかな。 準備の時間はあと〇時間あるな。 お客さんはもっと色んな味があると喜んでくれるんだな。 〇〇屋さんの飾りがよかった。真似して作ってみたい。 友達の考えを取り入れて、〇〇を準備しよう。 本番までにもっといいお店にしたい。 これまでのお祭りを思い出して、工夫できることを探してみると、もっと楽しいお祭りになりそうだよ。	お客さんに楽しんでもらいたいな。 いろいろなお客さんが来てくれて、わかくさの学級のことを知ってもらう目的が達成できた。 みんなで準備をして、自分もみんなも楽しいお祭りができたね。毎日の活動や学習発表会にもつなげていこう。

【本時の目標】

プレオープンとして身近な相手に対してお店を開いたり友達のお店を体験したりする活動を通して、お客さんの様子や反応を見ながらお店の出し方や接客の仕方を考え、より楽しんでもらえるお店になるような工夫を見付けることができるようにする。　【思考力，判断力，表現力等】

【本時の展開】（６／９）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
＜前時まで＞ プレオープン・お祭り本番に向けて、自分のお店の準備や発表の練習を積み重ねてきた。 また、お祭りの流れや進行については、全体をまとめる役割の子どもを中心に話合いを進めてきた。		
お祭り本番に向けて、お店をよりよくするには？ ○お祭りの流れを確認して、プレオープン出店の準備をしよう 今回は、自分はお店屋さんをやるんだったな。 どんな商品か楽しみだな。 地図でお店の場所や名前を確認しよう。 **お祭り本番をもっと楽しくするためには、どんなことが必要かな？** ◆お店屋さん、お客さんになって楽しいお祭りを始めよう！ ○プレオープン出店開始 担　当　食べ物チーム：お店屋さん　遊びチーム：お客さん 場　所　お店…２組教室　　飲食コーナー…３組教室 ※次時のプレオープンでは、お店屋さんとお客さんの役割を入れ替えて、それぞれの立場を体験する。 **お店屋さん** 「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」を言おう。 お客さんは商品に喜んでくれていそうだ。装飾はどうかな。 もっと色々な種類の商品を作ればよかったかな。 **お客さん** お店屋さんの言葉遣いが素敵で、真似したいな。 衛生面にとても気を付けているんだな。 良い所、直した方がいい所を伝えてみようかな。 ○お客さんにもらった意見の確認・振り返り お客さんが喜んでくれて嬉しかった。 本番までに商品の数を増やした方がいいな。 ○○屋さんのお店の飾りが素敵だったから、真似したいな。 お祭り本番が楽しみだな。 こんな物があったらよさそうだな。 **お客さんの意見を聞いたり、他のお店に行って工夫を見付けたりして、お祭りをもっと楽しくするために必要なことが見えてきたよ。** ○使った物の片付け ○挨拶	お祭りやお楽しみ会の経験 生単 自立活動 時間の見通しや行動の切り替え 算数 自立活動 店員・客としての丁寧な言葉のやり取り 国語 自立活動 数量や得点の計算 算数 意見を友達に伝える時の言い方の工夫や気持ちの調整 自立活動 もらった意見のまとめと活動の振り返り 国語 自立活動	「本番に向けてお店をよりよくするために必要なことを見付ける」というプレオープンの目的を確認し、立ち返ることができるようにするために、子どもに目的を問い、キーワードを掲示する。（視点１） 他のお店の工夫に目を向け、自分のお店の改善につなげられるよう、プレオープンでお客さんの意見を聞いたり、お店を評価したりする機会を設けるとともに、事前に評価の観点を確認し、商品の見た目や味などの観点に着目するよう声を掛け、評価の理由を引き出す。（視点２） 感想や意見を相手に伝わる言葉や方法で表現できるよう、伝え方を子どもと一緒に考えるとともに、付箋やメモ、シールなどを用意し、自分に合った方法で意見を可視化できるようにする。 もらった意見を踏まえ、次回の準備の時間にどのようなことをするとよいかを考えられるよう、お店屋さんの子どもとともに振り返る。（視点１） 本番や本番までの準備の時間の見通しをもてるように、掲示している全体の流れを示しながら確認する。（視点１）

【本時の評価】

お客さんから意見をもらったり、友達のお店を体験したりすることで、より楽しんでもらえるお祭りにするためのお店の工夫を見付けている。　（行動観察・発言・ワークシート）

緑丘小　第 24 回教育実践研究会　助言者・協力者一覧

日　程	部 会	助言者	授業協力者
Ⅰ期 9月 18 日(金)	社会	石川 円 (山鼻小)	栗原 聡太郎 (芸術の森小)
	算数	小松 孝昭 (米里小)	三國 将広 (附属札幌小)
	図画工作	冨波 修 (中央小)	菊地 惟史 (幌西小)
	体育	大牧 眞一 (北教大教授)	佐藤 圭一 (手稲鉄北小)
	外国語	岩村 鋭介 (藤野南小)	大原 拓幸 (もみじの森小)
	道徳	長野 文洋 (開成小)	北山 達大 (平岸西小)
Ⅱ期 11 月6日(金)	国語	唐澤 俊樹 (幌西小)	松岡 佑 (附属札幌小)
	理科	古川 勉 (山の手南小)	坂下 哲哉 (附属札幌小)
	生活・総合	大宮 健一 (幌南小)	助川 陽一 (大谷地小)
	音楽	山田 健一 (伏見小)	数田 浩樹 (発寒南小)
	特別活動	鎌田 哲至 (新光小)	福本 勇太 (福移学園)
	特別支援	田中 進一 (山の手支援)	大塚 陽子 (手稲中央小)

【研　究　同　人】

【校　長】　三戸部文彦
【教　頭】　中島　大輔
【国　語】　坂野由美子（６年）　羅津日向子（５年）　中島　幹太（５年）
【社　会】　谷川　　充（４年）　奥泉　　峻（５年）　平　　侑真（３年）
【算　数】　三浦聡一郎（２年）　池野　翔太（１年）　佐野　楓河（４年）
　　松村　倫宏（担任外）　間山ことみ（担任外）
【理　科】　磯川　祐人（３年）　池田　拓樹（３年）
【生活・総合】　森下　恭時（６年）　菅原　裕子（２年）
【音　楽】　二木　愛花（１年）　工藤　壮生（２年）　喜井　　調（主幹教諭）
【図　工】　北野信次郎（５年）　渡辺恵美子（１年）
【体　育】　齋藤　未来（６年）　清橋隆之介（４年）
　　清水　美鳥（養護教諭）高久はるな（養護教諭）
【道　徳】　髙橋　　周（２年）　中野梨紗子（５年）　酒井　利来（４年）
　　山内　聡子（教務主任）
【外国語】　太田　麻子（専科）　和田　　誉（４年）
【特別活動】　黒田　健太（３年）　千葉　朋輝（６年）
【特別支援】　木村　裕昭　石川　富美　森　　達也
　　篠原　　唯　岩井　千波　奥山　陽子
【時間講師】　山根ひとみ
【非常勤講師】　逸見　直和
【事務職員】　相髙　将吾　我妻　亜紀
【栄養士】　吉川　雅代　　【用務員】　大沼　　伸
【校務助手】　幕田　美雪　　【補助員】　三上　大輔
【学びのサポーター】　小平　　治　阿波みどり　向井えい子
【育児休暇】　花田　瑞希（教諭）　若林麻衣子（教諭）
　　勝谷ひなの（教諭）　加藤　　葵（教諭）

【転　出　同　人】

令和６年度
丸山　　悠　加藤　美咲　前川　正大　佐々木美穂　渡部　　厚　髙橋　静香　小畑　曜子
杉浦恵利奈　狩野　　量　仙北　明美　森下　美雪　中丸　修平　本間聖奈子　宿田　　淳
木戸　優香　田中あやの　渡部みずき

令和７年度
田中　義直　丹羽　洋彦　橋本萌々子　小島由紀子　道見佳奈枝　島田　周子　柿﨑　健吾
青柳　大介　武田　若菜　大嶋　育美　川見　一弘　藤林　道治　佐藤　香代　下出千津留
長谷川優季　稲實　弘美　江川ひとみ　佐藤　亮輔　髙本　泰子